

隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小
～ 明日が楽しみな学校をめざして ～」

隈府小学校
学校だより No.25
文責 芹川博文
11月6日（金）

精一杯頑張る姿から伝わる輝き

～ 持久走への向き合い方と 現実との向き合い方との共通点 ～



体育で持久走が始まりました。「嫌だな」「きついな」と思う人がいるかもしれません。小中学生の頃の私が、まさにそうでした。私は、体育が得意ではなく、特に走ることは、短距離も長距離も苦手でした。持久走の時、頭の中では色々と作戦を立てるのですが、現実は大きく違いました。走り出すとすぐに横腹が痛くなりました。スースー、ハッハッのリズミカルな息遣いもゼーゼーと苦しくなります。しかし、それでも走り続けます。そして、何とかゴールし、「終わった！」と、安堵したものです。

校長室の窓から見えた５，６年生の持久走練習。仕事の手を止めて外に出て応援しました。「頑張れ！」と叫びました。子どもたちが十分頑張っていることは表情からも分かります。しかし、やはり「頑張れ！」「ファイト！」と叫んでしまいます。言葉そのものの意味以上に、何かを言わないではおれない思いです。どうしても拍手をしたくなるのです。そこに、速いも遅いも関係ありません。精一杯頑張っている子（人）を見たら、応援したくなる思い。そして、応援すると同時に、こちらが元気や勇気をもらう瞬間。

大人になって、運動として走ることは激減しました。しかし、走り続け、何とかゴールし、「終わった！」と安堵したあの感覚は、日常の様々な場面と重なります。ある意味ゴールが見えない中、走り続けることもあります。そんな時こそ、一歩一歩踏みしめながら走り続けることの大切さを思います。必ずゴール（区切りや着地地点）があります。そう思うと、持久走への向き合い方と、現実との向き合い方には共通点があるようにも思えます。「頑張れ！」「ファイト！」と応援してくれる家族や仲間の存在の有り難さ。声には出さなくとも、そっと見守ってくれる人の温かさも、日常と重なります。

頑張る人を揶揄したり、批判したりするのでなく、応援する人でありたい。そう思わされる持久走の時間です。苦しいことにも向き合い、自分なりに精一杯頑張る姿。子どもたちのそんな姿が、たまらなく輝いて見える持久走の時間です。

短い秋の日々を味わいながら

～ ある朝 挨拶を交わした時に思い出した詩 ～

ある朝、「おはようございます」と、いつもの挨拶を交わした時、ふと下の詩の断片が浮かんできました。挨拶は不思議です。世界中に様々な言語がありますが、全ての言語で挨拶が交わされ心を通わせます。動物や鳥、魚、昆虫などにも癒されます。草花や風、星にも。短い秋の日々を味わいながら、人の優しさや自然の美しさを感じたいものです。忙しい毎日だからこそ大切にしたいものです。

「二度とない人生だから」　坂村 真民

二度とない人生だから
一輪の花にも 無限の愛を そそいでゆこう
一羽の鳥にも 無心の耳をかたむけてゆこう

二度とない人生だから
一匹のこおろぎでも ふみつぶさないように
心してゆこう どんなにか喜ぶことだろう

二度とない人生だから
一ぺんでも多く 便りをしよう
返事は必ず 書くことにしよう

二度とない人生だから
まず一番身近な者たちに
できるだけのことをしよう
貧しいけれど 心豊かに接してゆこう

二度とない人生だから
つゆ草のつゆにも 巡り会いの不思議を思い
足をとどめて 見つめてゆこう

二度とない人生だから
のぼる日しずむ日 まるい月かけてゆく月
四季をそれぞれの 星々の光にふれて
わが心を 洗いきよめてゆこう

二度とない人生だから
戦争のない世の実現に努力し そういう詩を
一遍でも多く つくってゆこう
わたしが死んだら あとを継いでくれる
若い人のために
この大願を 書き続けてゆこう